

みなさんは、何を軽米らしさにあげますか？

昔きゅうり、店頭 の炭火で魚を焼く風景、今はないあの街角の建物・・・などなど

「ろっか」

先日、赤レンガ倉庫の屋根裏の掃除をしました。すさまじいホコリと格闘すること数日。祖父が使ったさまざまな道具が所狭しと並べられました。そのうちのひとつ。今回のご報告の案内人が下の写真、



「ろっか」という栗などを乾燥させた道具です。

10枚程度なら大切に取って置こうと考え

もするのですが、ナント出てきた150枚!! さてはて、考えあぐねて戸草内地区のおばあさんに相談したのです。

「ああ! こりゃあ懐かしいもんだあ。いいもん持ってきてくれだあ!」聞けば大根を干したり、梅や栗、胡桃、栗、豆などを乾燥させるのに、いろいろと重宝するというのです。捨てなくてもよいことがわかり、僕は足取り軽く隣の家、そのまた隣へと回りました。

そのうちの何軒かは、僕の祖父を覚えていました。そのときに教えていただいた昔話を一つ。

ちょうど、栗がなるのはテストの頃だあ。テストだと早く学校が終わるへえで、うちの息子ア学校に行く前と帰ってきてからと、栗を拾ってあんたのお爺さんに買ってもらったんだ。そのお金を貯めて

7800円もする立派な革靴を買ってナア...たいした喜んでだっけ。ほんとにありがたかった。

「ところでナンボだ?」かつて祖父は栗や胡桃を分けてもらえたから、商売ができたのです。どうして祖父の道具を売ってお金をもらうことができるでしょう。僕は「じいちゃんの道具を使ってくれるだけで充分です」と対価を固辞しました。もしその家に孫がいたら、収穫の季節の庭先で、軽米の昔話をしながらろっかを振るってくれたらそれで充分なのですから。

僕はたくさんの祖父の思い出に胸を暖めさせてもらい、冬枯れの戸草内地区を後にしました。先ほどの革靴を買った高校生は、自慢の靴を履いて軽米を巣立ったのだろうか。そんなことを空想しながら、曲がりくねった沢伝いの道にハンドルを切ります。炭焼き小屋、茅葺き屋根、白壁の土蔵、馬小屋、木橋...。あれ? これこそがまさに軽米らしさではありませんか。この沢をのぼると長倉地区。かつて松の脇の人たちは軽米に来るのに戸草内を越えたと聞きました。この道と沢の流れのなかには、まだまだ語られることのないドラマが数えきれないほど眠るのでしょうか。踊るように光を弾き、影に沈みながら、絶えることなく流れ続ける沢。音楽にも似た悠久のその水底に、軽米らしさを透かし見た気のした夕暮れでした。(団員K)

蓮台野橋が通行可能に

工事中だった新しい蓮台野橋が12月10日より通行可能となりました。またそれに伴い、信号機も移設されています。

4つある親柱は、下部が徳楽寺の鐘楼から、上部が橋のたもとにある揚水場(側溝の清掃のためのポンプ場)の広告塔からデザインを取ったそうです。素材は鋳物が使われているとのこと。

